

「生きていて良かった。」

友人

平成三十年の西日本豪雨で祖父母と共に家に取り残されてしまった私は、雨の音が響く暗闇で一晩過ごしました。夜明けになり、思い出の品が沈んでいく姿を視界に入れながら救助されたのですが、感覚がまひしていたのか、その時私は一粒の涙もこぼしませんでした。そんな状態のまま運ばれた避難所には私の友人も来ていました。友人は泥水で汚れている私を見るなり、少しの迷いもなく抱きしめて、「生きていて良かった」と言ってくれました。そのたった一言に恐怖や悲しみ、そして安心感が一気に押し寄せ、涙があふれそうになりました。この一言で生きている有り難さを実感したのです。この気持ちを忘れず、一日一日に感謝しながら大切に生きていきたいです。

受賞にあたって

2018年の西日本豪雨で、祖父母とともに自宅の2階に一晩取り残され、腰の辺りまで水につかりました。朝になって周りを見渡すと、木が流れていたり、崩れているところが目に入りました。祖父母の身体も心配で、気が張り詰めていましたが、避難所で幼稚園からの幼なじみからこの言葉をかけられて、一気に安心するとともに、「違う未来」もあつたのだということを実感しました。

今でも大雨が降ったりすると、このときを思い出しますが、生きていくというのは、そんな思いを超えていくことなのだと思います。